

神奈川山梨教会連合会たより

かりん

「共感・共苦の出来る取次者に」

須賀院崇徳先生は、昭和五十三年十月二十五日生まれ。大学卒業後は不動産業に就職されました。現場監督など社会人経験をされた後、平成二十年に金光教学院に入学され、翌二十一年に卒業・教師補命を受けられました。

初代教会長であるお父様、お母様、奥様、四歳と一歳の娘さんと同居され、現在は二代教会長として日々取次の御用にあたられています。

○教会の次男としてお生まれになられた先生ですが、教会の後継はいつ頃から考えてましたか？

須賀院崇徳先生（以下・崇）…私は六歳までの間に、交通事故に五度も遭っていたのですが、折に触れて「お前はおかげをいただいてきたのだよ」と聞かされてきたことが影響してると思います。

大学生の頃に家族会議があり、兄が継がないなら僕がと決めてはいましたが、社会生活で迷いもしました。結局人間関係で

追い込まれたこともあり、教師の道を選びました。

○武蔵小杉教会では、様々な活動をされているイメージがあります。

崇…今は母が主導の「婦人会」と、私が主導の「若手のひろば」、子どもたちのための

「フォーゲル」があります。

それ以外に、専門の氏子主導のヴァイオリン教室、生け花教室などがあります。

○先生もお忙しそうですね。



川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第 43 回 武蔵小杉教会 須賀院崇徳先生

フォーゲルなども先生が主にされているのですか？

崇…発隊してからは、願ってもあり隊長である私が御結界へ座り続けました。だから、会

活動には参加しないと自然消滅してしまうのかなあ、とも思いましたが、神様は、私がお結界に座る代わりに、代役（隊長代理）をあてがってくださり、私がお結界を離れずとも会活動が出来るようになりました。このことには驚きました。

○お結界に専念出来ますね。御用されるご信者さんに何を求めますか？

崇…氏子にもっと任せよう、というよりは、私をもっとお結界に座ってお取次の御用をさせていたたく、ということに主眼を置くようにしています。氏子にこうしてほしい、これを求める、というよりは、まず取次者のやるべきことは何かを考える方が先だと考えます。

偉そうに聞こえてしまうかもしれませんが、必要なものは自然と残っていくのかな？と。無くなったら無くなったで、そのくらいに会活動は考えています。金光教の生命線は結界取次で、それ以外にはないと、極論ですが正直思っています。後は、必要だと思った人が願っていくことだと思います。

○先生の求めるものは。

崇…お結界が凹（くぼ）くなるのが願いです。水が寄る如し、難儀に苦しめられている人が吸い寄せられるような、そのような教会、取次者になることを願っております。

○ありがとうございました。（今村則子）



「首都圏女性の集い」 報告

17.02.11 全水道会館

今年も 2 月 11 日、JR 水道橋駅近くの全水道会館において、「首都圏女性の集い」が開かれました。

八王子教会の増田美和子先生を迎え、「家庭介護の中で……」を拝聴しました。現在 62 歳の先生は、信者の家庭の末っ子に生まれ、何も出来ず何もわからない、甘えん坊の泣き虫だったとか。金光

教の教師を志し、学院を出た先生は、縁あって八王子教会の後継者である誠夫先生と結婚し、教会に入ります。お舅に当る二代教会長・利市先生、続いて同居していた叔父、そして、姑に当る幸子先生と順番に介護が続くことになりました。

幸子先生には認知症が出て、その後お風呂で転んで肋骨を骨折、寝たきりに近い状態になります。長く大変な家庭介護をどう乗り切ったかというお話で、聴いているだけでもかなり辛い内容なのですが、会場は笑い声に包まれたのです。

例えば、叔父さんが便を壁に塗りつけた件では、「壁中がベンベンベン、ベンベンベン」という具合で……。有名な河内音頭の所の出身ですと説明する時には、「♪さてもこの場の皆さまがたよ……♪」と歌い、いつも

怒っている幸子先生をどうしたら笑顔にしてあげられるかと、ふと童謡を口ずさんだら、思いがけず一緒に歌ってくれて、しかも笑顔がこぼれたというエピソードでは、「♪青い目をしたお人形は……♪」とまた歌が出ました。会場は涙、笑いに歌を加え、非常に楽しい雰囲気でした。

なぜ、こういう辛い体験を楽しいお話に変えられたのか。先生のお人柄かと思えます。先生のお話には、自分をよくみせようなどという計算は一切なく、ありのままを率直に語っておられ、会場は「わかるわかる」「私もそうだったわ」という理解と共感に包まれました。

「神様は私の介護を支え助けて下さったと思っていたが、そうではなかった。神様は、ただの甘えん坊だった私を成長させて下さった。幸子先生は尊い教材になって下さったのだ。結ぶの言葉が非常に印象的でした。」

(大塚東子)



○かりんの輪

「自問自答の子育て」

横須賀教会 トシコさん

私には小学校に通う二人の息子がおり、楽しい毎日ながら、子育てに悩みは尽きません。

兄弟と言ってもその性格は正反対で、上の子は非常におとなしく、下の子はもの凄く活発です。内気な上の子を見ていると、自分の気持ちを上手く表現できなかった子供時代の私自身とそっくりです。

私がかつて、いじめに遭ったことがあり、自分の子供には同じ思いをさせたくないと思っていました。ですから、上の子が生まれた時には、いじめに負けない強く逞しい子どもに育てようと思ったものです。

しかし、子育てを進めるにつれて、その思いはすこしずつ変わってきました。強く負けない心を育てるのも良いですが、人の気持ちを考えられる優しい心を育むことの方が、もっとも大切だと思うようになってきたのです。

私は結婚して退職するまで、幼稚園教員として、子供たちの教育に携わってきました。教員資格を取る実習でお世話になった幼稚園で、私はとても衝撃的な光景を目の当たりにしました。

「早く着替えなさい！」怒鳴り声の先にはとあるベテランの先生。彼女はすごい剣

金光教ビジネスセミナー報告

去る3月5日、鶴見教会で、金光教ビジネスセミナーが開かれました。昨年9月に続いて2回目の開催となる今回は、「どう高めるモチベーション」をテーマとして、出席者は15名でした。65才以下の現役世代が対象で、若手の先生が6名、他オブザーバーが3名参加されました。

まず始めに、やる気や士気が上がった経験をセミナー参加者で出し合いました。その一例を紹介すると、大きな仕事を任せられた時、任された仕事が入り込んだ時、昇給がキープされた時、周りの人から変わったねと言われた時、信者からおかげをいただいたと言われた時、言ったことが支えとなりおかげを受けたと言われた時などの発言がありました。士気が上がるのは、信頼、成果、昇給がキープワードのようです。

続いてグループ討議に移りました。新聞報道された事例の「新幹線の終点東京駅で車両の掃除をされる方々のグループが、20分間で到着した車両をどうやってきれ



いに掃除をするかに取り組み、生き生きと楽しそうに、乗客への対応もてきぱきと親切で、生き甲斐を感じるようになったのは何故なのか？」を、3つのグループに分かれて想像して討議し、それぞれ発表しました。

実際のこととして、掃除のやり方を自分で考えてもらった、道具の改善をした、作業の分担をした、ウェアも自分で考えた、旅行のコンダクターと自認した、掃除は日本のメッセージと意識した、清掃の仕事の価値をブランド化した、自己評価し社員への申請をしたなどが紹介され、「3K・低モチベーション」を克服し、いまや世界の鉄道会社が注目している鉄道整備員になっているとのことでした。

さらに、「みんながリーダーになる組織」「失敗しても犯人探しはしない」のように中心価値を共有することで高める会社、「やってみなはれ」と役割や機会を積極的に与える会社、「ほめほめメール」や「多様な意見を交わしてこそ価値は生まれる」として濃いコミュニケーションをうながす会社があるなど、モチベーションを高めた会社の例が紹介されました。

最後に、御教えを手がかりに、「人間にはへだてがあるが、神には、殿であろうが職人であろうが、上下はない。」「大きな石は一人ではあがらないが、大勢ならあがるか

(4 ページ上段へ↓)

幕で「この子は自閉症なのよ。話もしないし笑いもしない。先生、この子をちゃんと着替えさせておいてね」そう私に言い捨てると、彼女はどこかに行ってしまう。子供の目の前で怖い表情、厳しい口調でそんな事を言う彼女の姿に、この子はどれだけ傷つき、私たち教員をどんな気持ちで見つめているのだろうかと考えて、私はいたたまれない気持ちになりました。

私はその子に笑いかけ、「お着替えしよっか」と言うと、替えの服の袖口に自分の手をくぐらせて、小さな手をギュッと握りました。キョトンとした表情のその子に「ほら、今からお手々の電車がトンネルをくぐるよ」と手を引っ張り、そのまま袖を通しました。

「お手々の電車、トンネルくぐれたね」と誉めると、その子はとてもかわいい笑顔を見せてくれました。この子はちゃんと分かっている。自分の意志を持ち、気持ちもちゃんと伝わっている。そう感じた瞬間でした。その子はその後も帰宅時間までずっと私の方に、ニコニコと笑い掛け、時折手を振ってくれ、とてもうれしく感じました。それと同時に、心ない言葉を掛けられた時に、「この子がどう感じていたのかと考えて、とても心が痛くなりました。」

さて、私たち大人は子供たちとしっかり向かい合っているでしょうか。

私は、日々子育てについて自問自答しながら、子供たちと共に歩んでいます。

らなあ「理屈があつても、みなまで言うな。理屈とくさびとは八合詰め。詰める紙袋は裂ける。あいよかけよで世は治まるのである」病人に品物を与える親切だけが見舞いではない。見舞いの言いようで、気分が強くも弱くもなる。せつかくの見舞いに行く親切があるなら、病人の心が丈夫になる見舞いを言うてやると、病人の心が広く大きくなる。」など良いモチベーションのあり方を紹介された。

次回の金光教ビジネスセミナーを10月15日に行いますので、ぜひご参加ください。
(辻秀志)

▼ 訃 報

横浜西教会前教会長 山田尚子先生が、三月九日にご帰幽になられました。八十六歳でした。

謹んで、これからの御霊様の立ち行きをお祈り申し上げます。

▼ 訂正とお詫び

前号で間違いがありましたので、お詫びして訂正申し上げます。

○平塚教会の大祭日程

5 / 7 (日) ↓ 5 / 6 (土) へ訂正。

○女性のつどい (7 / 5 開催) の講師

着物リメイク 吉岡裕子氏

介護が必要になったら 古賀さやか氏

みんなのつどい① 横浜ハイク開催

4月8日(土)、JR桜木町駅に老若男女39名が参集して、今年一回目の「みんなのつどい 横浜ハイク」が行われました。

受付、開会行事の後、生憎の雨模様の中、一行は桜が開き始めた汽船道を通ってカップヌードルミュージアムへ向かいます。上は80代から下は3歳まで、お互いを気遣いながら歩を進めました。

ミュージアムでは、いろいろな展示を見学した後、マイカップヌードルファクトリーへ。ここで、世界に一つだけのオリジナルカップヌードルを作ります。始めにカップのデザインから。子ども達が夢中で描く姿が印象的でした。

次は中味です。麺を入れてもらい、スープと具材を選びます。それぞれこだわりの組み合わせのカップヌードルを手にしてニンマリ。最後に、風船のように膨らみます。パッケージに入れて完成です。

皆さん、高級ブランドバッグの如く首から提げて満足気でした。

(村田光治)



「実意をこめてすべてをたいせつに」

相模原教会 藤井淳子

私が重症心身障害児者(以下、重心)の看護に携わるようになり、今年で二十七年目を迎えました。

重心とは、十八歳までに発生した重度の知的障害と肢体不自由が重複している方々に認定されます。私の勤務先は、病院と施設の機能を兼ね備えた重心施設でした。非常勤時代も含め二十四年間勤務し、多職種を統括する部長職を経て、平成二十七年三月に退職を迎えました。

その間に、「県知事賞」はじめ、県内の助産師・保健師・看護師の中から十名に贈られる「看護賞」までも頂く事が出来ました。私は、四代金光様の「実意をこめてすべてをたいせつに」を、常日頃から心がけるようにしておりますので、この様な賞を頂けたのではと、神様に感謝をしております。退職後、重心の生活介護事業所に再就職が出来、今再び「重心看護」の継続が出来るおかげを頂いております。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信 一

〒 245-0017 横浜市泉区下飯田町926・23 金光教横浜西教会内